

哲学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講学期	曜日	講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
哲学特論Ⅰ	ニーチェの道德批判	2	城戸 淳	1学期	木	2	哲学特論Ⅱ
哲学特論Ⅱ	「フランクフルト学派」の 哲学とその周辺	2	齋藤 直樹	1学期	月	4	哲学特論Ⅱ
哲学特論Ⅲ	知覚の哲学入門	2	佐藤 駿	2学期	木	4	哲学特論Ⅲ
哲学特論Ⅳ	科学と疑似科学の間	2	伊勢田哲治	集中			哲学特論Ⅲ
生命環境倫理学特論Ⅰ	生命環境倫理の諸問題	2	直江 清隆	1学期	火	3	哲学特論Ⅰ
哲学総合演習Ⅰ	哲学研究の作法と技法 1	2	直江清隆、城戸淳 荻原理、原 壱	1学期	月	5	哲学研究演習Ⅰ
哲学総合演習Ⅱ	哲学研究の作法と技法 2	2	直江清隆、城戸淳 荻原理、原 壱	2学期	月	5	哲学研究演習Ⅱ
哲学研究演習Ⅰ	カントの目的論	2	城戸 淳	2学期	木	2	哲学研究演習Ⅰ
哲学研究演習Ⅱ	アーレント『革命論』再 読	2	森 一郎	1学期	火	4	哲学研究演習Ⅱ
哲学研究演習Ⅲ	概念工学研究1	2	原 壱	1学期	金	5	
哲学研究演習Ⅳ	概念工学研究2	2	原 壱	2学期	金	5	
古代中世哲学研究演習Ⅰ	プラトン『ソフィステス』を 読む	2	荻原 理	1学期	月	3	古代中世哲学研究演習 Ⅰ
古代中世哲学研究演習Ⅱ	プラトン『ソフィステス』を 読む	2	荻原 理	2学期	月	3	古代中世哲学研究演習 Ⅱ
近代哲学研究演習Ⅰ	カント『純粹理性批判』 研究	2	城戸 淳	1学期	水	5	近現代哲学研究演習Ⅰ
近代哲学研究演習Ⅱ	カント『純粹理性批判』 研究	2	城戸 淳	2学期	水	5	近現代哲学研究演習Ⅱ
現代哲学研究演習Ⅰ	現象学研究	2	直江 清隆	1学期	火	5	近現代哲学研究演習Ⅲ
現代哲学研究演習Ⅱ	現象学研究	2	直江 清隆	2学期	火	5	近現代哲学研究演習Ⅳ
科学哲学研究演習Ⅰ	哲学のメソッド	2	原 壱	1学期	金	4	科学哲学研究演習Ⅰ
科学哲学研究演習Ⅱ	記号論理学	2	原 壱	2学期	金	4	科学哲学研究演習Ⅱ
生命環境倫理学研究演習Ⅰ	AIと人間(医療や気候 変動など)	2	直江 清隆	2学期	火	3	生命環境倫理学研究演習

科目名：哲学特論 I / Philosophy (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

semester：1 学期， 単位数：2

担当教員：城戸 淳（准教授）

講義コード：LM14210， 科目ナンバリング：LIH-PHI601J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：哲学特論 II】

1. 授業題目：

ニーチェの道徳批判

2. Course Title (授業題目)：

Nietzsche's Critique of Morality

3. 授業の目的と概要：

ニーチェの道徳批判について考察する。19 世紀末にニーチェが提起した過激な批判は、20 世紀の哲学や思想を駆動してきた。しかし、キリスト教道徳に対するニーチェの系譜学的な批判は、いわば不発弾のまま、21 世紀のわれわれにまだ突きつけられているように思われる。この講義では、ニーチェの歴史哲学の形成、力への意志と遠近法主義、生の価値をめぐる超越論的問題、ニヒリズムと永遠回帰などの諸論点について考察しつつ、ニーチェの『道徳の系譜学』を読み解くことにしたい。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

Students will examine Nietzsche's critique of morality on the basis of reading his On the Genealogy of Morality.

5. 学習の到達目標：

ニーチェの道徳批判を把握する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Understanding an outline of Nietzsche's critique of morality.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 問題提起——なぜ道徳を批判するのか
- 2 若きニーチェにおける古典文献学と歴史
- 3 系譜学の方法の形成
- 4 『道徳の系譜学』へ——序論を読む
- 5 第一論文（1）——イギリスの心理学者と貴族的価値評価
- 6 第一論文（2）——ルサンチマンによる価値転換と自己欺瞞
- 7 第二論文（1）——よい良心と疚しい良心
- 8 第二論文（2）——内攻的残虐さから神に対する罪へ
- 9 第三論文（1）——禁欲主義の理想
- 10 第三論文（2）——キリスト教の自己超克
- 11 ニーチェの道徳批判と生の価値の問題
- 12 ヨーロッパのニヒリズム
- 13 道徳の遠近法と歴史
- 14 永遠回帰の肯定的理解へ

8. 成績評価方法：

数回の小レポートと期末レポートによる。

9. 教科書および参考書：

ニーチェ『道徳の系譜学』中山元訳、光文社（光文社古典新訳文庫）、2009 年。

（購入のうえ講義に持参すること。）

10. 授業時間外学習：

『道徳の系譜学』を読み、講義をふまえて、再読する。その反復によって、ニーチェ的な思考の文体を体得してください。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：哲学特論Ⅱ／ Philosophy(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：1 学期， 単位数：2

担当教員：齋藤 直樹（非常勤講師）

講義コード：LM11405， 科目ナンバリング：LIH-PHI602J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：哲学特論Ⅱ】

1. 授業題目：

「フランクフルト学派」の哲学とその周辺

2. Course Title (授業題目)：

Philosophy of the Frankfurt School and Its Surrounding Ideas

3. 授業の目的と概要：

「フランクフルト学派」とは、1920 年代にフランクフルト大学に設立された社会研究所のメンバーと思想的ないしは歴史的に関連をもつ思想家集団のことをいう。彼らの思想の基本的な特徴は、マルクスが提示した史的唯物論を土台としつつも、当代の哲学ならびに経験諸科学が示す最新の知見を逐一導入することを通じて、現代社会のアクチュアルな問題を批判的に解明しようとする「学際的唯物論」の構想にある。本講義では、この構想の現代へと至る批判的な継承過程を、第一世代による「道具的理性批判」（ホルクハイマー／アドルノ）、第二世代による理性批判の「コミュニケーション論的転回」（ハーバーマス）、第三世代による「承認論的転回」（ホネット）を主軸として概観し、彼らの思想を支える哲学的主張の骨子を通史的に理解することを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The Frankfurt School is a group of thinkers concerning social theory and critical philosophy associated with the Institute for Social Research at Goethe University Frankfurt founded in the nineteen-twenties. This course provides an overview of the history of the development of the theories of Frankfurt School, from the beginning of the twentieth century to the present day, to help students learn about fundamental concepts of its philosophical arguments.

5. 学習の到達目標：

1. 20 世紀初頭から現在に至るフランクフルト学派の思想的展開を通史的に捉えることができるようになる
2. 「批判理論」の理念ならびに方法論的な特徴を理解することができるようになる
3. 理論と実践ないしは哲学と社会の関係のあり方に対して自分なりの観点を持つことができるようになる

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The purpose of this course is for students to become able to;

- 1: grasp the historical process of the development of the theories of the Frankfurt School in the twentieth century.
- 2: understand the fundamental ideas and the methodological characteristics of “critical theory.”
- 3: have an original viewpoint of the relationship between theory and practice, or philosophy and society.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. フランクフルト学派の社会的背景：ナチズムとユダヤ人問題
2. フランクフルト学派の思想的背景：マルクスとフロイト
3. 初期フランクフルト学派の思想(1)：ホルクハイマーにおける「批判」概念
4. 初期フランクフルト学派の思想(2)：ベンヤミンの「アレゴリー論」
5. 第一世代の思想(1)：初期アドルノにおける「自然史の理念」と「コンステラチオン」
6. 第一世代の思想(2)：『啓蒙の弁証法』における「道具的理性批判」
7. 第一世代の思想(3)：『否定弁証法』における理性批判の展開
8. 第一世代の思想(4)：『美の理論』における否定的ユートピアニズムの射程
9. 第二世代の思想(1)：ハーバーマスによるアドルノ批判
10. 第二世代の思想(2)：理性批判の「コミュニケーション論的転回」
11. 第二世代の思想(3)：公共性の構造転換—「システム」と「生活世界」
12. 第三世代の思想(1)：ホネットによるハーバーマス批判
13. 第三世代の思想(2)：理性批判の「承認論的転回」
14. 第三世代の思想(3)：「物象化」概念への承認論的アプローチ
15. フランクフルト学派の現代的展開

8. 成績評価方法：

学期末のレポート（80%）、平常点（20%）

なお、レポートを提出するためには、全体の三分の二以上の出席を要する。

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、必要に応じて補助資料を配付する。参考文献は授業中に随時指示する。

No textbooks will be used. Handouts will be given corresponding to necessary. Students should take notes on their own.

10. 授業時間外学習：

指定された文献あるいは配布された資料を熟読するとともに、各回の講義内容をその都度ノート等にまとめ整理しておくこ

と。

Students are required to review each class using handouts and the notes of the lecture.

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness :

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

1 2. その他 :

科目名：哲学特論Ⅲ／ Philosophy(Advanced Lecture)Ⅲ

曜日・講時：後期 木曜日 4 講時

semester：2 学期， 単位数：2

担当教員：佐藤 駿（非常勤講師）

講義コード：LM24403， 科目ナンバリング：LIH-PHI603J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：哲学特論Ⅲ】

1. 授業題目：

知覚の哲学入門

2. Course Title (授業題目)：

An Introduction to the Philosophy of Perception

3. 授業の目的と概要：

知覚経験は、生物と世界との最も基本的な関係である。哲学においては、とりわけ近代以降、私たち人間と世界とあいだのこの基本的関係をめぐって様々な見解が陰に陽に提出されてきた。現代では、いわゆる「知覚の問題」を想定しつつ、その経験の認識論的身分・形而上学的本性にわたって再び議論されなおしている。この授業では、知覚経験の何が問題なのか、またどのような見解がありうるのかを歴史的な背景を踏まえつつ検討していく。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Perceptual experience is thought of as the most basic relation between us and the world: we know the things, its properties, the states of affairs in the world through perceptions. But how? In philosophy, how to evaluate the epistemological significance and understand the very nature of perception has been, and is a significant issue. In this course, the students will learn what is called "the problem of perception," its implications, and possible answers to that problem.

5. 学習の到達目標：

1. 知覚についてどんなことが問題となりうるかを理解することができる。
2. 知覚の認識論と形而上学とを区別できる。
3. 知覚の哲学について、自分なりの見解を持つことができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The purpose of the course is to help students (1) understand what problems there are in the philosophy of perception, (2) distinguish the epistemology between the metaphysics of perception, and (3) have their own view on the matter.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 歴史的背景 (1)：实在論・観念論・懐疑論
3. 歴史的背景 (2)：現象学とプラグマティズム
3. 知覚の問題 (1)：その論証
4. 知覚の問題 (2)：その諸帰結
5. 諸立場の整理：間接的实在論・直接的实在論
6. 知覚の問題の分析 (1)：二元論的前提
7. 知覚の問題の分析 (2)：表象の前提
8. これまでのまとめ
9. 選言主義 (1)：そのアイディア
10. 選言主義 (2)：その帰結
11. 知覚の内容 (1)：表象的内容一般について
12. 知覚の内容 (2)：概念的内容と非概念的内容
13. 知覚的知識の表出主義 (1)：アイディアを集める
14. 知覚的知識の表出主義 (1)：定式化
15. 全体の振り返り

8. 成績評価方法：

授業への積極的参加度 (30%)， 期末レポート (70%)。

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書は授業内でそのつど指示する。

[No textbooks are used. The lecturer will recommend some readings relevant to each topic as the course goes on.]

10. 授業時間外学習：

授業で扱われた考え方，思想，人物，キーワードなどを自分なりに調べ，授業の内容と合わせて理解の定着を図ること。事典やインターネットを見る，読むだけでなく，ノートをつくるなどして，整理するとよい。

[Students are expected to search and summarize thoughts, concepts, and historical figures that appear in the course, in their own way.]

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：哲学特論Ⅳ／ Philosophy(Advanced Lecture)Ⅳ

曜日・講時：通年集中 その他 連講

semester：集中， 単位数：2

担当教員：伊勢田哲治（非常勤講師）

講義コード：LM98829， 科目ナンバリング：LIH-PHI604J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：哲学特論Ⅲ】

1. 授業題目：

科学と疑似科学の間

2. Course Title (授業題目)：

Between Science and Pseudoscience

3. 授業の目的と概要：

科学のようで科学でない領域、いわゆる疑似科学は長らく科学哲学の1つの関心領域となってきた。特に、ポパーの設定した「境界設定問題」において、科学と疑似科学の境界設定は中心的なテーマとなった。1980年代以降このテーマの研究は下火となっていたが、近年この問題への関心は再び高まりつつある。この授業では科学と疑似科学の関係について古典的な議論と近年の知見を紹介し、この問題についての受講者の理解を深めることを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The region of something that looks like science (but not really science) is called pseudoscience, and this has been a long-standing interest of philosophy of science. In particular, within the 'demarcation problem' set by Popper, the demarcation between science and pseudoscience has been the central issue. The interest somewhat receded after 1980s, but there is a recent increase in the interest in this theme. In this lecture, we look at both classical arguments and recent insights on the relationship between science and pseudoscience so that the attendants can deepen their understanding on this issue.

5. 学習の到達目標：

境界設定問題の展開を理解するとともに、科学と疑似科学の切り分けについてどのような立場があるかを理解し、批判的な検討ができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

to understand the development of the demarcation problem, to know what are the main alternatives as to demarcating science and pseudoscience, and to acquire the capacity to examine those alternatives critically.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第一部 歴史的背景

1 境界設定問題の歴史(1回)

2 疑似科学概念の歴史(1回)

第二部 古典的論文

3 ポパーの定式化(2回)

4 クーンらの対案(1回)

5 ルースと創造科学(1回)

6 ラウダンの「墓去」論文(1回)

7 境界確定作業の社会学(1回)

第三部 近年の展開

8 近年の再定義の試み(2回)

9 プラグマティックアプローチ(2回)

10 疑似科学にまつわる現在の問題(2回)

11 まとめ(1回)

8. 成績評価方法：

授業中に課す小テストと事後のレポート

9. 教科書および参考書：

伊勢田哲治『疑似科学と科学の哲学』(京都大学出版会，2003)

10. 授業時間外学習：

授業終了後にレポート提出のための調査や執筆が必要となる。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：生命環境倫理学特論 I / Bio-Environmental Ethics (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

Semester：1 学期， 単位数：2

担当教員：直江 清隆（教授）

講義コード：LM12306， 科目ナンバリング：LIH-PHI605J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：哲学特論 I 】

1. 授業題目：

生命環境倫理の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

Issues in Bio- and Environmental Ethics

3. 授業の目的と概要：

医療をはじめとする科学技術と人間の関わりをどう捉えるかは今日ますます重要な問いとなっている。この授業では応用倫理学の基本的な概念と原理を学ぶとともに、生命環境倫理学の主要問題を紹介する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

How to understand the relationship between science, technology including medicine and human beings has become an increasingly important issue today. This course deals with the basic concepts and principles of applied ethics. It also explains some important issues of bio- and environmental ethics.

5. 学習の到達目標：

応用倫理学の基本的な事項を理解し、生命環境倫理学の個別の問題に対して自分なりに考えることができる

6. Learning Goals (学修の到達目標)

After taking this course, participants will be able to：

- Explain the essential concepts of applied ethics
- Discuss the individual problems of bio- and environmental ethics.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

規範倫理学の基礎とともに、生命環境倫理学におけるその具体的あり方、現在の諸問題について順次検討する。基本的に講義とディスカッションで構成するが、必要に応じてビデオの使用、論文紹介を行う。

- 1, はじめに：生命環境倫理学への招待
- 2, 功利主義
- 3, 功利主義と医療資源の配分
- 4, 義務論
- 5, 義務論と自己決定
- 6, 徳倫理学
- 7, 政治哲学(1)
- 8, 政治哲学(2)
- 9, 生殖医療
- 10, 終末期医療
- 11, 再生医療
- 12, 感染症の倫理
- 13, 環境倫理学の基礎：人間中心主義か否か
- 14, 環境倫理学の展開
- 15, まとめ

8. 成績評価方法：

レポート 80%（授業中に実施する小レポートを含む） 授業への参加 20%

9. 教科書および参考書：

参考書：赤林 朗他編『入門・医療倫理』Ⅰ～Ⅲ、勁草書房。吉永 明弘、福永 真弓『未来の環境倫理学：災後から未来を語るメソッド』勁草書房

10. 授業時間外学習：

上記テキストを本に基本事項を解説するので必ず振りかえってみたい。生命倫理学や環境倫理学の文献はたくさんあるので、進んで取り組んで欲しい。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：哲学総合演習 I / Seminar in Philosophy I

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

semester：1 学期， 単位数：2

担当教員：直江清隆、城戸淳、荻原理、原 塑（教授、准教授）

講義コード：LM11504， 科目ナンバリング：LIH-PHI606J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：哲学研究演習 I 】

1. 授業題目：

哲学研究の作法と技法 1

2. Course Title (授業題目)：

Philosophy (Advanced Seminar) I

3. 授業の目的と概要：

口頭発表と討論を通して、哲学的思考力、判断力および表現力を養う。

参加者は自由に自らの研究テーマを設定し、協議して決めた発表日までに、発表論文および発表資料（レジュメ等）を作成する。

発表の場では、発表者によるプレゼンテーションに続いて、参加者の中から予め指定された特定質問者を中心に、全員で自由な討論を行い、また教員からのコメントを受ける（哲学専攻分野の教員は可能な限り全員が出席する）。

参加者は研究発表を行うことを通して、研究テーマの発見、論文作成および発表の方法、討論の仕方等について、基礎的なトレーニングを積む。

また、特定質問者の役割を果すことや、討論に積極的に参加することを通して、他者の主張を適切に把握し、批判・評価し、建設的な議論を行う力を養う。

哲学専攻分野の大学院学生は可能な限り全員が履修することが望ましい。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course aims to improve the students' ability to express and deepen their philosophical thoughts through presentation and discussion.

5. 学習の到達目標：

口頭発表と討論を通して、哲学的思考力、判断力および表現力を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills needed to structure philosophical discussions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. 報告と討論 (1)
3. 報告と討論 (2)
4. 報告と討論 (3)
5. 報告と討論 (4)
6. 報告と討論 (5)
7. 報告と討論 (6)
8. 報告と討論 (7)
9. 報告と討論 (8)
10. 報告と討論 (9)
11. 報告と討論 (10)
12. 報告と討論 (11)
13. 報告と討論 (12)
14. 報告と討論 (13)
15. 報告と討論 (14)

8. 成績評価方法：

方法

研究発表をすること（単位認定のためには必須）

その上で、

発表内容 35%

討論へ参加 30%

討論の内容 35%

9. 教科書および参考書： 特に指定しない。

10. 授業時間外学習：

報告者は前の週の金曜日までに原稿を用意する。

特定質問者および参加者はそれをもとに事前に質問事項を用意する。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：哲学総合演習Ⅱ／ Seminar in PhilosophyⅡ

曜日・講時：後期 月曜日 5講時

Semester：2学期， 単位数：2

担当教員：直江清隆、城戸淳、荻原理、原 塑（教授、准教授）

講義コード：LM21503， 科目ナンバリング：LIH-PHI607J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：哲学研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：

哲学研究の作法と技法 2

2. Course Title (授業題目)：

Philosophy(Advanced Seminar)Ⅱ

3. 授業の目的と概要：

口頭発表と討論を通して、哲学的思考力、判断力および表現力を養う。

参加者は自由に自らの研究テーマを設定し、協議して決めた発表日までに、発表論文および発表資料（レジュメ等）を作成する。

発表の場では、発表者によるプレゼンテーションに続いて、参加者の中から予め指定された特定質問者を中心に、全員で自由な討論を行い、また教員からのコメントを受ける（哲学専攻分野の教員は可能な限り全員が出席する）。

参加者は研究発表を行うことを通して、研究テーマの発見、論文作成および発表の方法、討論の仕方等について、基礎的なトレーニングを積む。

また、特定質問者の役割を果すことや、討論に積極的に参加することを通して、他者の主張を適切に把握し、批判・評価し、建設的な議論を行う力を養う。

哲学専攻分野の大学院学生は可能な限り全員が履修することが望ましい。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course aims to improve the students' ability to express and deepen their philosophical thoughts through presentation and discussion.

5. 学習の到達目標：

口頭発表と討論を通して、哲学的思考力、判断力および表現力を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills needed to structure philosophical discussions.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

1. オリエンテーション
2. 報告と討論（1）
3. 報告と討論（2）
4. 報告と討論（3）
5. 報告と討論（4）
6. 報告と討論（5）
7. 報告と討論（6）
8. 報告と討論（7）
9. 報告と討論（8）
10. 報告と討論（9）
11. 報告と討論（10）
12. 報告と討論（11）
13. 報告と討論（12）
14. 報告と討論（13）
15. 報告と討論（14）

8. 成績評価方法：

方法

研究発表をすること（単位認定のためには必須）

その上で、

発表内容 35%

討論へ参加 30%

討論の内容 35%

9. 教科書および参考書： 特に指定しない。

10. 授業時間外学習：

報告者は前の週の金曜日までに原稿を用意する。

特定質問者および参加者はそれをもとに事前に質問事項を用意する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practicalbusiness

12. その他：

科目名：哲学研究演習 I / Philosophy(Advanced Seminar)I

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：2 学期， 単位数：2

担当教員：城戸 淳（准教授）

講義コード：LM24211， 科目ナンバリング：LIH-PHI608J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：哲学研究演習 I 】

1. 授業題目：

カントの目的論

2. Course Title (授業題目)：

Kant's Teleology

3. 授業の目的と概要：

カントの『判断力批判』（1790）の第 2 部「目的論的判断力の批判」は、先行する 2 つの批判書の亀裂を埋め、批判哲学に体系的連関を与える雄篇である。そこで展開されるカントの目的論の哲学は、生物学の哲学的基礎づけというにとどまらず、こんにちなお、生命や自然をめぐる文明的課題に応える示唆を与えるものであるように思われる。演習では、第 2 部の分析論から弁証論までを邦訳をもとに読みすすめ、担当者による報告をふまえて、カントの目的論をめぐる諸論点について討議する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Close reading and philosophical analysis of "Critique of the Teleological Power of Judgment" in Kant's Critique of the Power of Judgment.

5. 学習の到達目標：

『判断力批判』を読み、カント的な目的論の概要を把握する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will understand an outline of Kantian teleology on the basis of reading the third Critique.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回 カント『判断力批判』第 2 部「目的論的判断力の批判」への導入

第 2～第 8 回 第 1 編「目的論的判断力の分析論」読解

第 9～第 14 回 第 2 編「目的論的判断力の弁証論」読解

第 15 回 総括と討議

8. 成績評価方法：

討議、担当回の報告、期末レポートによる。

9. 教科書および参考書：

カント『判断力批判』熊野純彦訳、作品社、2015 年。

(当該箇所のコピーでも可。)

10. 授業時間外学習：

事前にテキストを読み、演習に参加して、事後に再読する。その過程を反復することが、哲学的な理解を深める近道です。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness

12. その他：

科目名：哲学研究演習Ⅱ／Philosophy(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

Semester：1 学期， 単位数：2

担当教員：森 一郎（非常勤講師）

講義コード：LM12407， 科目ナンバリング：LIH-PHI609J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：哲学研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：

アーレント『革命論』再読

2. Course Title (授業題目)：

Reading Hannah Arendt's On Revolution

3. 授業の目的と概要：

ハンナ・アーレントの『革命論』は、『人間の条件』（『活動的生涯』）に次ぐ第二の哲学的名著であり、21 世紀の今日、まさに読まれるべき根本書である。この授業では、英語版（1963 年）とドイツ語版（1965 年）との違いに留意し、とりわけドイツ語版の精読に努める（ドイツ語版からの日本語訳を配布する）。今学期は、後半の中心をなす第 4～5 章を一定のペースで読んでゆく。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

5. 学習の到達目標：

- ・ 20 世紀の古典的テキストを読み味わい、哲学的思考を鍛える。
- ・ 哲学書の原典読解に堪える語学力を身につける。
- ・ テキストの内容や疑問点を整理して発表し、質疑応答を交わす力を養う。
- ・ 哲学の根本問題と現代日本の問題状況が直結していることを学ぶ。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進度予定：

ドイツ語版の Hannah Arendt, Über die Revolution の日本語訳を配布し、主にそれに拠って議論する予定。英語版 On Revolution とその邦訳『革命について』も参照する。

毎回の担当者は、段落ごとにまとめたレジュメを作成、配布し、それに基づいて報告し、議論をリードする。ドイツ語原文に照らしての訳文の検討も歓迎する。

授業の進行スケジュールは、おおむね以下を予定している。

第 1 回 ガイダンスとイントロダクション——『革命論』を今日読むということ

第 2 回 第 4 章（その 1）

第 3 回 第 4 章（その 2）

第 4 回 第 4 章（その 3）

第 5 回 第 4 章（その 4）

第 6 回 第 4 章（その 5）

第 7 回 第 4 章（その 6）

第 8 回 第 5 章（その 1）

第 9 回 第 5 章（その 2）

第 10 回 第 5 章（その 3）

第 11 回 第 5 章（その 4）

第 12 回 第 5 章（その 5）

第 13 回 第 5 章（その 6）

第 14 回 第 6 章の展望

第 15 回 まとめ——『革命論』と「活憲」

8. 成績評価方法：

平常点（出席は当然とし、発表担当、議論への参加など）を 60%、学期末レポートを 40%として総合評価する。

9. 教科書および参考書：

- ・ ドイツ語版テキストの日本語訳をコピーして配布し、これを授業の主要テキストとする。
- ・ 原書は購入を勧めるが、希望者には該当箇所をコピーして配布する予定。
Hannah Arendt, Über die Revolution, Piper, 1965/ Hannah Arendt, On Revolution, Faber, 1963
- ・ 英語版からの日本語訳は、参考書として各自購入を勧める。
ハンナ・アーレント『革命について』志水速雄訳、ちくま学芸文庫、1995

10. 授業時間外学習：

毎回の講読範囲をあらかじめ熟読し、疑問点などはメモして、授業に臨むこと。また、授業後には何度も読み直して、理解を深めること。

各回の担当者には担当箇所のテキスト精読と入念なレジュメ作成が求められること、言うまでもない。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：哲学研究演習Ⅲ／ Philosophy(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 金曜日 5 講時

semester：1 学期， 単位数：2

担当教員：原 塑（准教授）

講義コード：LM15503， 科目ナンバリング：LIH-PHI630J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

概念工学研究 1

2. Course Title (授業題目)：

Conceptual Engineering 1

3. 授業の目的と概要：

分析哲学において近年、急速に勃興してきた研究潮流である概念工学を概観する。そのために、戸田山和久・唐沢かおり編著『〈概念工学〉宣言！』名古屋大学出版会、2019 年、を演習形式で読む。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

To have an overview of conceptual engineering, a rapidly emerging research trend in analytical philosophy in recent years.

5. 学習の到達目標：

1. 概念工学の方法論を理解する。
2. 概念工学の方法論を使用して、思索を展開することができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

1. To understand conceptual engineering methods
2. To be able to develop arguments by using conceptual engineering methods

7. 授業の内容・方法と進度予定：

『〈概念工学〉宣言！』の各章を、順に、概観する。

1. 第 1 章 哲学の側からの Let's 概念工学 1
- 1 2. 第 1 章 哲学の側からの Let's 概念工学 2
3. 第 2 章 心理学の側からの Let's 概念工学 1
4. 第 2 章 心理学の側からの Let's 概念工学 2
5. 第 3 章 心の概念を工学する 1
6. 第 3 章 心の概念を工学する 2
7. 第 4 章 自由意志の概念を工学する 1
8. 第 4 章 自由意志の概念を工学する 2
9. 第 5 章 自己の概念を工学する 1
- 1 0. 第 5 章 自己の概念を工学する 2
- 1 1. 第 6 章 心理学者によるまとめと今後に向けて 1
- 1 2. 第 6 章 心理学者によるまとめと今後に向けて 2
- 1 3. 第 7 章 哲学者によるまとめと今後に向けて 1
- 1 4. 第 7 章 哲学者によるまとめと今後に向けて 2
- 1 5. まとめ

8. 成績評価方法：

授業時の発表 (60%)、レポート (40%)

9. 教科書および参考書：

戸田山和久・唐沢かおり編著『〈概念工学〉宣言！』名古屋大学出版会、2019 年

1 0. 授業時間外学習：

書籍を読み、関連事項を調べ、文章にまとめておくこと。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness

1 2. その他：

科目名：哲学研究演習Ⅳ／ Philosophy(Advanced Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 金曜日 5講時

semester：2学期， 単位数：2

担当教員：原 塑（准教授）

講義コード：LM25503， 科目ナンバリング：LIH-PHI631J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

概念工学研究2

2. Course Title (授業題目)：

Conceptual Engineering 2

3. 授業の目的と概要：

分析哲学において近年、急速に勃興してきた研究潮流である概念工学を概観する。そのために、Kate Manne, 2017, Down Girl: The Logic of Misogyny. Oxford University Press を演習形式で読む。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

To have an overview of conceptual engineering, a rapidly emerging research trend in analytical philosophy in recent years.

5. 学習の到達目標：

1. 概念工学の方法論を理解する。
2. 概念工学の方法論を使用して、思索を展開することができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

1. To understand conceptual engineering methods
2. To be able to develop arguments by using conceptual engineering methods

7. 授業の内容・方法と進度予定：

Down Girl: The Logic of Misogyny の各章を、順に、概観する。

1. Preface: Wronging Him, Introduction: (Eating) Her Words
2. Chapter 1: Threatening Women 1
3. Chapter 1: Threatening Women 2
4. Chapter 2: Ameliorating Misogyny 1
5. Chapter 2: Ameliorating Misogyny 2
6. Chapter 3: Discriminating Sexism 1
7. Chapter 3: Discriminating Sexism 2
8. Chapter 4: Taking His (Out) 1
9. Chapter 4: Taking His (Out) 2
10. Chapter 5: Humanizing Hatred 1
11. Chapter 5: Humanizing Hatred 2
12. Chapter 6: Exonerating Men
13. Chapter 7: Suspecting Victims
14. Chapter 8: Losing (To) Misogynists
15. Conclusion: The Giving She

8. 成績評価方法：

授業時の発表 (60%)、レポート (40%)

9. 教科書および参考書：

Kate Manne, 2017, Down Girl: The Logic of Misogyny. Oxford University Press

ケイト・マン『ひれふせ、女たちーミソジニーの論理』(小川芳範訳)、慶應義塾大学出版会、2019年

10. 授業時間外学習：

書籍を読み、関連事項を調べ、文章にまとめておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：古代中世哲学研究演習 I / Ancient and Medieval Philosophy (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

セメスター：1 学期， 単位数：2

担当教員：荻原 理（教授）

講義コード：LM11306， 科目ナンバリング：LIH-PHI610J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：古代中世哲学研究演習 I 】

1. 授業題目：

プラトン『ソフィステス』を読む

2. Course Title (授業題目)：

Seminar on Plato's SOPHIST

3. 授業の目的と概要：

古代中世のテキストを語学的・内容的に正確に読解し、これをもとに哲学的な考察・議論ができるようになる。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

To become able to read texts of ancient or medieval philosophy accurately and discuss it philosophically

5. 学習の到達目標：

プラトン『ソフィステス』の最初の部分の主要論点を正確に説明できるようになる。同巻のテキストの解釈上の問題を正確に説明できるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

To become able to explain the main points in early part of Plato's SOPHIST accurately

To become able to explain interpretative problems in the book accurately

7. 授業の内容・方法と進度予定：

プラトン『ソフィステス』の最初の部分を原語、古代ギリシアで丹念に読み、これについて哲学的考察を加える。毎回、事前に担当者を決めておく。担当者はまず自分の担当箇所を音読し、訳す。他の参加者や教員が訳に関しコメントをする。次に、皆でこの箇所の内容について議論を展開する。適宜、翻訳や注釈を参照する。場合により、関連論文も取り上げる。

8. 成績評価方法：

授業時のパフォーマンス

9. 教科書および参考書：

授業初回に指示する

10. 授業時間外学習：

次回分の箇所を読んでおく

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：古代中世哲学研究演習Ⅱ／ Ancient and Medieval Philosophy(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

semester：2学期， 単位数：2

担当教員：荻原 理（教授）

講義コード：LM21307， 科目ナンバリング：LIH-PHI611J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：古代中世哲学研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：

プラトン『ソフィステス』を読む

2. Course Title (授業題目)：

Seminar on Plato's SOPHIST

3. 授業の目的と概要：

古代中世のテキストを語学的・内容的に正確に読解し、これをもとに哲学的な考察・議論ができるようになる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

To become able to read texts of ancient or medieval philosophy accurately and discuss it philosophically

5. 学習の到達目標：

プラトン『ソフィステス』の最初の部分の主要論点を正確に説明できるようになる。同巻のテキストの解釈上の問題を正確に説明できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

To become able to explain the main points in early part of Plato's SOPHIST accurately

To become able to explain interpretative problems in the book accurately

7. 授業の内容・方法と進度予定：

プラトン『ソフィスト』の最初の部分（前期の続き）を原語、古代ギリシアで丹念に読み、これについて哲学的考察を加える。毎回、事前に担当者を決めておく。担当者はまず自分の担当箇所を音読し、訳す。他の参加者や教員が訳に関しコメントをする。次に、皆でこの箇所の内容について議論を展開する。適宜、翻訳や注釈を参照する。場合により、関連論文も取り上げる。

8. 成績評価方法：

授業時のパフォーマンス

9. 教科書および参考書：

授業初回に指示する

10. 授業時間外学習：

次回分の箇所を読んでおく

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practical business

12. その他：

科目名：近代哲学研究演習 I / Modern Philosophy (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

semester：1 学期， 単位数：2

担当教員：城戸 淳（准教授）

講義コード：LM13507， 科目ナンバリング：LIH-PHI612J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：近現代哲学研究演習 I 】

1. 授業題目：

カント『純粋理性批判』研究

2. Course Title (授業題目)：

Kant's Critique of Pure Reason

3. 授業の目的と概要：

カント『純粋理性批判』（1781/87 年）における「誤謬推理論」とは、魂の実体性、単純性、同一性、離在性を論証したと称する合理的心理学に対する批判であり、伝統的な霊魂の形而上学とカントの新たな自我論・自己意識論との闘いを活写している。しかも誤謬推理論は『純粋理性批判』第二版において全面的に改稿され、動く批判哲学の一断面を伝える一章でもある。

演習では、『純粋理性批判』のドイツ語原文を丹念に読む。また、進行に応じて、関連する各種コメンタリーや研究書・論文などを報告してもらう。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

A close reading and analysis of “The Paralogisms of Pure Reason” of Kant's Critique of Pure Reason in two editions.

5. 学習の到達目標：

哲学の原典テキストを読みとく忍耐と技法を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Students will develop the abilities to read and analyse philosophical texts.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入——『純粋理性批判』入門、演習の進め方
- 2-5. 純粋理性の誤謬推理（第一版）
- 6-7. 第一 実体性の誤謬推理／批判
- 8-9. 第二 単純性の誤謬推理／批判
- 10-11. 第三 人格性の誤謬推理／批判
- 12-15. 第四 観念性(外的関係の)の誤謬推理／批判

8. 成績評価方法：

訳読、討議、報告による。

9. 教科書および参考書：

Immanuel Kant, Kritik der reinen Vernunft, PhB 505, ed. J. Timmermann, Hamburg: Felix Meiner Verlag, 1998.

(他の箇所の参照のために原典の冊子は必須です。できれば上記の新哲学文庫版を購入・持参してください。)

10. 授業時間外学習：

予習を欠かさずに演習に臨むこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○” Indicates the practical business

12. その他：

ドイツ語の初等文法を習得済みであることが必須だが、未履修者は1ヶ月の自習で詰め込んで臨んでよい。

科目名：近代哲学研究演習Ⅱ／ Modern Philosophy (Advanced Seminar) II

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

セメスター：2 学期， 単位数：2

担当教員：城戸 淳（准教授）

講義コード：LM23507， 科目ナンバリング：LIH-PHI613J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：近現代哲学研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：

カント『純粋理性批判』研究

2. Course Title (授業題目)：

Kant's Critique of Pure Reason

3. 授業の目的と概要：

カント『純粋理性批判』（1781/87 年）における「誤謬推理論」とは、魂の実体性、単純性、同一性、離在性を論証したと称する合理的心理学に対する批判であり、伝統的な霊魂の形而上学とカントの新たな自我論・自己意識論との闘いを活写している。しかも誤謬推理論は『純粋理性批判』第二版において全面的に改稿され、動く批判哲学の一断面を伝える一章でもある。

演習では、『純粋理性批判』のドイツ語原文を丹念に読む。また、進行に応じて、関連する各種コメンタリーや研究書・論文などを報告してもらう。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

A close reading and analysis of “The Paralogisms of Pure Reason” of Kant's Critique of Pure Reason in two editions.

5. 学習の到達目標：

哲学の原典テキストを読みとく忍耐と技法を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will develop the abilities to read and analyse philosophical texts.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1-4. (承前) 総括についての考察 (第一版)

5-8. 純粋理性の誤謬推理 (第二版)

9-13. メンデルスゾーン論駁

14. 解決の結び

15. 移行の一般的注解

8. 成績評価方法：

訳読、討議、報告による。

9. 教科書および参考書：

Immanuel Kant, Kritik der reinen Vernunft, PhB 505, ed. J. Timmermann, Hamburg: Felix Meiner Verlag, 1998.

(他の箇所参照のために原典の冊子は必須です。できれば上記の新哲学文庫版を購入・持参してください。)

10. 授業時間外学習：

予習を欠かさずに演習に臨むこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○” Indicates the practical business

12. その他：

ドイツ語の初等文法を習得済みであることが必須だが、未履修者は1ヶ月の自習で詰め込んで臨んでよい。

科目名：現代哲学研究演習 I / Contemporary Philosophy (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

セメスター：1 学期， 単位数：2

担当教員：直江 清隆（教授）

講義コード：LM12507， 科目ナンバリング：LIH-PHI614J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：近現代哲学研究演習 III】

1. 授業題目：

現象学研究

2. Course Title (授業題目)：

Seminar on Phenomenology

3. 授業の目的と概要：

フッサールの『内的時間意識の現象学』を読み、現象学の基本概念を理解する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

The aim of this course is to read Husserl's "On the Phenomenology of the Consciousness of Internal Time" and help students to acquire an understanding of the fundamental principles of phenomenology.

5. 学習の到達目標：

- ・現象学の基本概念について説明をすることができる。
- ・現象学の議論における時間の役割について論じることができる

6. Learning Goals (学修の到達目標)

After taking this course, participants will be able to：

- Explain the essential concepts of phenomenology
- Discuss the role of time in phenomenological arguments

7. 授業の内容・方法と進度予定：

現象学の根底に横たわる問題として時間がある。『内的時間意識の現象学』は現代哲学、思想、科学に大きな影響を及ぼしている名著であり、問題の書でもある。フッサールは物理的時間ではなく、それを構成していく時間を構成する意識についての解明を行っていく。時間は一瞬で流れ去るのに、多くのものはなぜ持続的に「存在する」ということが可能なのか。

この授業では現象学について紹介をしたのち、本書を原文で読むことにします。ドイツ語のほかにもすぐれた英訳もあります。また、詳細な訳註と解説がついた日本語訳も出ています。授業は、適当な部分ごとに担当者を決め、授業内でテキストを訳読し、議論するかたちで進めます。

- 1、イントロダクション 現象学とは
- 2、『内的時間意識』における時間の問題概観
- 3、『内的時間意識』読解（1）
- 4、『内的時間意識』読解（2）
- 5、『内的時間意識』読解（3）
- 6、『内的時間意識』読解（4）
- 7、『内的時間意識』読解（5）
- 8、中間まとめ 知覚と時間意識
- 9、『内的時間意識』読解（6）
- 10、『内的時間意識』読解（7）
- 11、『内的時間意識』読解（8）
- 12、『内的時間意識』読解（9）
- 13、『内的時間意識』読解（10）
- 14、前期時間論と後期時間論
- 15、まとめ

8. 成績評価方法：

レポート 50%

平常点 50% (討論などを含む)

9. 教科書および参考書：

E. Husserl. Zur Phänomenologie des inneren Zeitbewusstseins, (Husserliana X), ("On the Phenomenology of the Consciousness of Internal Time", 『内的時間意識の現象学』谷徹訳、ちくま学芸文庫) 欧文テキストは授業時に配布する。参考書は随時紹介するが、翻訳に付けられた訳註と解説はまず有力な参考になる

10. 授業時間外学習：

担当でない場合でも予習する。テキストと深く関連する参考図書、関連図書などを利用して、現象学について自分なりに取り組んでみる。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：現代哲学研究演習Ⅱ／ Contemporary Philosophy(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 5講時

semester：2学期， 単位数：2

担当教員：直江 清隆（教授）

講義コード：LM22507， 科目ナンバリング：LIH-PHI615J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：近現代哲学研究演習Ⅳ】

1. 授業題目：

現象学研究

2. Course Title (授業題目)：

Seminar on Phenomenology

3. 授業の目的と概要：

フッサールの『内的時間意識の現象学』を読み、現象学の基本概念を理解する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The aim of this course is to read Husserl's "On the Phenomenology of the Consciousness of Internal Time" and help students to acquire an understanding of the fundamental principles of phenomenology.

5. 学習の到達目標：

- ・現象学の基本概念について説明をすることができる。
- ・現象学の議論における時間の役割について論じることができる

6. Learning Goals(学修の到達目標)

After taking this course, participants will be able to：

- Explain the essential concepts of phenomenology
- Discuss the role of time in phenomenological arguments

7. 授業の内容・方法と進度予定：

前期に続き、フッサールの『改造』論文(1922-24)を読みます。

この授業では現象学について紹介をしたのち、本書を原文で読むことにします。ドイツ語のほかにすぐれた英訳もあります。また、詳細な訳註と解説がついた日本語訳も出ています。授業は、適当な部分ごとに担当者を決め、授業内でテキストを訳読し、議論するかたちで進めます。

1、前期の授業の復習：『内的時間意識』における時間の問題構成

2、『内的時間意識』読解（1）

3、『内的時間意識』読解（2）

4、『内的時間意識』読解（3）

5、『内的時間意識』読解（4）

6、『内的時間意識』読解（5）

7、『内的時間意識』読解（6）

8、『内的時間意識』読解（7）

9、『内的時間意識』読解（8）

10、『内的時間意識』読解（9）

11、『内的時間意識』読解（10）

12、『内的時間意識』読解（9）

13、『内的時間意識』読解（10）

14、前期時間論と後期時間論

15、まとめ

8. 成績評価方法：

レポート 50%

平常点 50%(討論などを含む)

9. 教科書および参考書：

E. Husserl. Zur Phänomenologie des inneren Zeitbewusstseins, (Husserliana X), ("On the Phenomenology of the Consciousness of Internal Time", 『内的時間意識の現象学』谷徹訳、ちくま学芸文庫) 欧文テキストは授業時に配布する。参考書は随時紹介するが、翻訳に付けられた訳註と解説はまず有力な参考になる

10. 授業時間外学習：

担当でない場合でも予習する。テキストと深く関連する参考図書、関連図書などを利用して、現象学について自分なりに取り組んでみること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness

12. その他：

科目名：科学哲学研究演習 I / Philosophy of Science(Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：1 学期， 単位数：2

担当教員：原 塑（准教授）

講義コード：LM15405， 科目ナンバリング：LIH-PHI616J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：科学哲学研究演習 I 】

1. 授業題目：

哲学のメソッド

2. Course Title (授業題目)：

How to Write a Philosophy Paper

3. 授業の目的と概要：

哲学で論文を執筆するのは難しい。論文を執筆するためには、テーマを決め、そのテーマに関連する文献を集め、それらを読み解き、議論状況を確認した後で、いままでの議論には見られない著者独自の視点をもつ議論を組み立てなければならない。だが、特にどのようなテーマで、またどのような仕方でも議論を組み立てれば、著者独自で、〈哲学〉らしい研究になるのだろうか。

この授業では、哲学研究の方法、特に文献の読解・解釈の方法を講義した後、サイモン・ブラックバーン著『ビッグクエスチョンズ 哲学』（山邊昭則・下野葉月 訳）を用いたワークショップ型の演習を行なう。また、同時並行して、受講者各人に、卒論・修論を執筆するとして、どのようなテーマについて、どのように論じたいかを考えてもらい、その内容を学期の後半の授業中、発表してもらい、受講者全員で討論する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In this course, you will learn how to write a philosophical paper through participation in group works.

5. 学習の到達目標：

1. 哲学論文の分析方法に習熟する。
2. 研究テーマを見つけ、テーマに関連する文献を調査し、著者独自の議論を組み立てることができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

1. You will be familiar with philosophical methods
2. You will be able to find research themes, examine the literature related to the themes, and make up your own discussions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

学期全体の授業構成は以下を予定している。

1. イントロダクション
2. 哲学研究方法論講義
3. 文献のまとめ方講義
- 4～7. ワークショップ型演習（4～5人のグループに分かれて、選んだテーマについて討論する）
- 8～9. ワークショップ発表
- 10～15. 卒論・修論構想発表

8. 成績評価方法：

授業中の課題に取り組む（60%）、研究発表（40%）

9. 教科書および参考書：

サイモン・ブラックバーン『ビッグクエスチョンズ 哲学』（山邊昭則・下野葉月 訳）2015年、ディスカバリー
佐々木健一『論文ゼミナール』2014年、東京大学出版会
戸田山和久『新版 論文教室—レポートから卒論まで』2012年、NHK出版会

10. 授業時間外学習：

論文執筆を目的として授業時に課される課題と取り組む。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

授業の具体的な進め方については初回授業時に説明する。

この授業は基本的には哲学専修・倫理学専修3年次の学生向けであるが、哲学・倫理学を専門とする博士前期課程大学院生も出席してもよい。ただ、この授業を受講することで、毎週月曜5限に実施している演習を代替することはできない。また、他の分野を専門とする大学院生で、この授業を受講することを希望する者は授業担当教員に相談すること。

科目名：科学哲学研究演習Ⅱ／Philosophy of Science(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

semester：2 学期， 単位数：2

担当教員：原 塑（准教授）

講義コード：LM25404， 科目ナンバリング：LIH-PHI617J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：科学哲学研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：

記号論理学

2. Course Title (授業題目)：

Formal Logic

3. 授業の目的と概要：

一階述語論理の言語に習熟するとともに、タブローによる妥当性のチェック方法を学び、そのスキルを使用して日本語による推論の妥当性を検討できるようにすることがこの授業の目的である。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The purpose of this course is to learn the language of first-order logic, learn how to check the validity of a tableau, and use that skill to examine the validity of inference in Japanese.

5. 学習の到達目標：

1. 記号論理学の背景にある基本的な考え方、概念を理解する。
2. 記号の操作法を身につける。
3. 日本語の推論の妥当性を検討する能力を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

1. Understand the basic concepts of formal logic.
2. Learn how to operate symbols.
3. To acquire the ability to examine the validity of inference in Japanese.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

学期を通じた授業の構成として以下を予定している。

1. イントロダクション
2. 記号について
3. 命題について
4. 命題の意味
5. 推論の妥当性
6. タブロー 1
7. タブロー 2
8. 多重量化
9. 自然言語から型式言語への翻訳
10. 数の数え方
11. 日本語による推論の妥当性 1
12. 日本語による推論の妥当性 2
13. 日本語による推論の妥当性 3
14. タブローの健全性と完全性
15. まとめ

8. 成績評価方法：

出席し、課題を提出する（60%）、テスト（40%）

9. 教科書および参考書：

加藤浩、土屋俊『記号論理学』放送大学教育振興会、2014 年
丹治信春『論理学入門』筑摩書房、2014 年

10. 授業時間外学習：

自宅で、テキストを予習し、課題と取り組むこと

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：生命環境倫理学研究演習 I / BioEnvironmental Ethics(Advanced Seminar)I

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時

セメスター：2 学期， 単位数：2

担当教員：直江 清隆（教授）

講義コード：LM22307， 科目ナンバリング：LIH-PHI618J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：生命環境倫理学研究演習 】

1. 授業題目：

AI と人間（医療や気候変動など）

2. Course Title (授業題目)：

AI and human being (Medicine, Climate Change etc.)

3. 授業の目的と概要：

AI やロボットは人間や社会を大きく変えようとしている。医療や環境をめぐる問題も例外では無い。この授業ではこのような状況で考慮されるべき平等、権利、豊かさ、エンハンスメントなどについて考えていく。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

AI and robots can radically change the human-world relations including medical and environmental ones. This course deals with ethical issues such as equality, rights, richness, enhancement, etc. that should be considered in the AI society.

5. 学習の到達目標：

生命倫理学の基本的な事項と問題を理解し、批判的に検討できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

After taking this course, participants will be able to：

- Explain the essential concepts of applied ethics
- Discuss the individual problems of bio- and environmental ethics.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業では、参加者で分担を決め、論文紹介と討論をメインとする。テキストとしては、Mark Coeckelbergh， AI Ethics (MIT Press Essential Knowledge series) 2020, Simon Peter van Ryseck et al(ed), Machine Medical Ethics, 2015 などから適宜選択する。必要に応じて日本語文献も使用する。分量にこだわらず、じっくり討論することに力点を置く。

- 1, ガイダンス(授業の進め方、予習上の注意、テキストの配布、要約担当の割り当て)
- 2, 技術哲学の現在と AI
- 3, AI と人間 (1)
- 4, AI と人間 (2)
- 5, AI と人間 (3)
- 6, AI と人間 (4)
- 7, AI と人間 (5)
- 8, AI と人間 (6)
- 9, AI と人間 (医療や環境) (7)
- 10, AI と人間 (医療や環境) (8)
- 11, AI と人間 (医療や環境) (9)
- 12, AI と人間 (医療や環境) (10)
- 13, AI と人間 (医療や環境) (11)
- 14, AI と人間 (医療や環境) (12)
- 15, まとめ

(研究状況や参加者の関心に応じて扱うトピックスを若干変更することがある)

8. 成績評価方法：

レポート(訳読の担当などを含む)60% 授業全体への貢献度 40%

9. 教科書および参考書：

開講時に分担一覧を配布し、プリントはそのつど配布する。

そのほかの参考文献については適宜授業内に指示する。

10. 授業時間外学習：

担当の回でなくとも予習すること、討議をもとに再度自分で考え直すこと。生命倫理についての基本的な考え方が問われることも多いので、前期の授業で扱った基本書にも進んで取り組んで欲しい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practicalbusiness

12. その他：

